

レター論文の新設，小論文の廃止

編集副委員長 権藤 克彦

レター論文とは

日本ソフトウェア科学会は，平成 21 年 6 月 4 日に投稿規定等 [1-3] を改正して，新しい査読種別としてレター論文を新設しました．また，それに伴い小論文は廃止しました．ここではレター論文とは何かを説明します．

まず論文の種類には 3 つの直交する軸：「論文種別」「査読種別」「募集種別」があります（図 1）．3 つの論文種別 [4]：「研究論文」「ソフトウェア論文」「解説論文」のそれぞれに対して，2 つの査読種別：「通常論文」「レター論文」のどちらかを著者は選択できます．

募集種別（従来の募集カテゴリ）は投稿する窓口の違いです．どの募集種別でもレター論文を選択可能です．ただし，レター論文を選択する場合は，投稿時の刷り上げページ数が 6 ページ以下である必要があります．

本学会コンピュータソフトウェア誌の通常論文（以降，通常論文と略す）とレター論文の違いは主に査読方法の違いです．図 2 に，レター論文，小論文，通常論文の主な違いをまとめました．

- 査読期間と査読基準：レター論文の査読期間は短いです．これはレター論文の速報性を損なわないための仕組みです．具体的には「照会なし」「査読者 1 名」とすることで 1~2 ヶ月間で採否が決定されるようにしています．

通常論文に対しては，論文種別ごとに定まる査読基準がそのまま適用されます．例えば，研究論文かつ通常論文の場合は「独創性，新規性，有用性などの点ですぐれたもの」となります（詳しくは，論文投稿規定 [1] を御覧ください）．

一方，レター論文の査読基準は異なり，論文種別ごとに定まる査読基準に加えて，速報性を重視した査読を行ないます．例えば，研究論文かつレター論文の場合は，速報性を重視して，関連研究との比較や評価などは通常論文ほどには重視しません．

なお，速報性を損なわないために，採録されたレター論文は優先的に掲載されます．

- ページ数：レター論文では投稿時には刷り上がりページ数で 6 ページ以下を厳守です．また，改訂後の刷り上がりページ数も原則 6 ページ以下です．

従来は 6 ページ以下のものは自動的に小論文になりましたが，現在は投稿時の刷り上がりページ数が 6 ページ以内であっても，著者が希望すれば通常論文として投稿できます．

- 発展させた論文の投稿：レター論文を発展させた論文を国際会議や通常論文として投稿することが可能です．投稿規定 [1] では，レター論文を発展させて日本ソフトウェア科学会

論文種別	査読種別	募集種別
<ul style="list-style-type: none"> 研究論文 ソフトウェア論文 解説論文 	<ul style="list-style-type: none"> 通常論文 レター論文 	<ul style="list-style-type: none"> 一般論文 特集論文 推薦論文 大会同時投稿論文

図 1 論文の種類：3つの直交する軸

	レター論文	小論文	通常論文
照会	なし	1回まで	2回まで
査読者	1名	2名以上	2名以上
ページ数	6ページ以下	6ページ以下	制限無し
査読期間	短い	普通	普通

図 2 レター論文，小論文，通常論文の主な違い

の通常論文として投稿した場合に限って，レター論文は投稿された通常論文の新規性を損なわないとし，投稿された通常論文全体を査読判定対象とすることになっています（国際会議に投稿可能かどうかはその国際会議の規定によりますが，内容を発展して十分な差異があれば，投稿可能なはずです。）

レター論文の狙い

レター論文を新設した理由は，研究会からのステップアップをよりスムーズにすることです（図 3）。

研究会から推薦されたり，研究会が企画した特集号に投稿したり，大会同時投稿をすると，（比較的長い）査読期間中，あるいは採録後は同じ内容の論文を国際会議に投稿することができません。当たり前ですが二重投稿になるからです [1]。これでは推薦論文や特集論文の意義が小さくなってしまいます。

そこでレター論文を新設いたしました。例えば，研究会での発表を発展させた論文をまずレター論文として投稿します。査読期間は短いので，その後で発展させたものを国際会議に投稿しやすくなります。また，さらに発展させたものを通常論文として投稿することもできます。

皆様からの多くのレター論文の投稿をお待ちしています。

FAQ

Q: 研究会の発表原稿をそのままレター論文に投稿しても OK ですか？

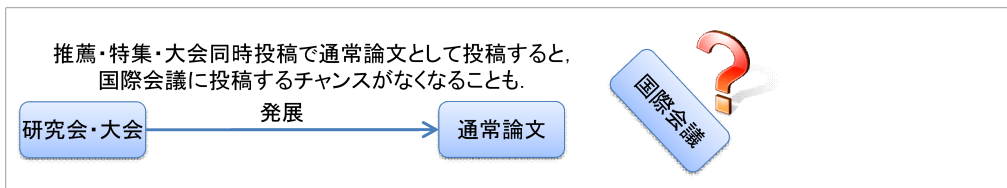
A: はい，OK です（6 ページ以下というページ制限を満たせば）

Q: 国際会議の原稿をそのままレター論文に投稿しても OK ですか？

A: はい，OK です（著作権など，その国際会議のルールに違反しなければ）

Q: レター論文の内容をそのまま（英語に翻訳して）国際会議に投稿しても OK ですか？

従来の投稿パス



新しい投稿パス

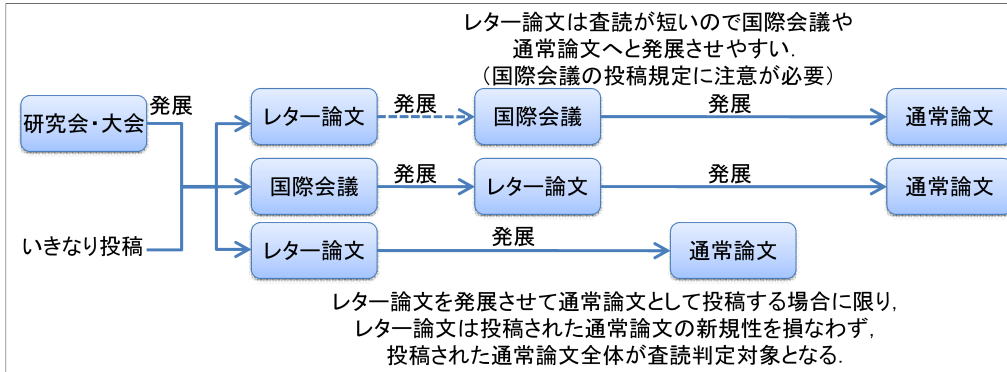


図 3 従来の投稿パスと新しい投稿パス

- A: その国際会議のルールによりますが、そのままではダメな場合が多いでしょう。十分発展させれば（例えば、内容や文章の 3 割以上が異なれば）投稿可能になるでしょう。
- Q: レター論文を発展させて日本ソフトウェア科学会の通常論文として投稿する際に、どの程度、発展させればいいのでしょうか？
- A: この場合は（レター論文からの差分だけではなく）投稿された通常論文全体が採録判定対象となりますので、「投稿論文全体が通常論文の採録基準に到達する」ように発展させて下さい。
- Q: 査読期間が重なる投稿は許されますか？
- A: いいえ、許されません。国際会議、レター論文、通常論文のいずれかを投稿中に、同じ内容のものをレター論文や通常論文として本学会に投稿した場合は二重投稿と見なされますのでご注意ください。
- Q: 改訂後の刷り上りページ数が原則 6 ページ以下とはどういう意味ですか？
- A: 例えば、査読者のコメントを反映した結果、やむを得ず、6 ページを超えてしまった場合でも、それを編集委員会が認める場合があるということです。最終原稿提出時に編集委員会にご相談ください（投稿時は 6 ページ以下厳守なことに十分ご注意ください。）
- Q: 6 ページ以下の論文は自動的にレター論文になるのですか？
- A: いいえ。6 ページ以下の場合、通常論文としても投稿できます。投稿時に通常論文かレター論文かのどちらかを明記して投稿してください。
- Q: (番外編) 投稿案内に「大会同時投稿論文の投稿時には英語概要は不要ですが、最終原稿には英語概要が必要です」とあるのですが、

A: はい, 大会同時投稿論文として投稿した場合に限り, 投稿時には英語概要は不要です. 大会予稿中の英語概要の有無で「大会同時投稿論文であること」が他の人に分かってしまうのは好ましくないため, 「投稿時は英語概要は不要」としました. この結果, 大会同時投稿論文の場合に限り, 英語概要を書かずに投稿できるというメリット(?)があります. これは今回のレター論文とは直接関係ありませんが, レター論文の導入と一緒に投稿規定・査読規定への改訂で加わった事項です.

参考文献

- [1] 日本ソフトウェア科学会 学会誌 論文投稿規定 <http://www.jsst.or.jp/prod/kitei/ronbun-toko-kitei-20090604.pdf>
- [2] 日本ソフトウェア科学会 学会誌 論文投稿案内 <http://www.jsst.or.jp/prod/kitei/ronbun-toko-annai-20090604.pdf>
- [3] 日本ソフトウェア科学会 学会誌 論文査読規定 <http://www.jsst.or.jp/prod/kitei/ronbun-sadoku-kitei-20090604.pdf>
- [4] 本位田 真一: 「コンピュータソフトウェア」における論文とは, コンピュータソフトウェア [26], No.1, p.1, 2009.